

第1回 東海市緑の基本計画策定委員会会議録

1 開催日時

令和8年（2026年）5月28日（木）午後1時30分から午後3時まで

2 開催場所

東海市役所 403会議室（4階）

3 次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長及び副委員長の選出
- (5) 議題
 - ア 緑の基本計画とは
 - イ 緑の現況と課題
 - ウ 緑のまちづくりに向けて
- (6) その他
 - ア 今後の予定
- (7) 閉会

4 出席委員（敬称略）

【委員】

長谷川 明子
村瀬 幸子
花井 卓也
松本 仁
吉鶴 靖則

【アドバイザー】

湯浅 健司（代理出席：砂田 襟加） 計6名

5 欠席委員（敬称略）

山田 晋也 計1名

6 事務局

都市建設部長	竹内 千明
花と緑の推進課課長	西野 貫喜
花と緑の推進課主幹	粂山 剛次

花と緑の推進課主幹 戸澤 哲也
花と緑の推進課統括主任 橋本 秀樹
花と緑の推進課主任 星川 実来
花と緑の推進課技師 増田 賢人

7 公開、非公開の別

公開

8 傍聴者の数

なし

9 内容

(1) 開会

事務局：事務局挨拶

東海市緑の基本計画策定委員会設置要綱、公開に関する取扱要領説明

(2) あいさつ

事務局：都市建設部長挨拶

(3) 委員紹介

事務局：策定委員自己紹介

(4) 委員長及び副委員長の選出

委員総数6名、出席委員5名のため、本委員会は成立

委員長は長谷川委員、副委員長は村瀬委員が指名推薦により選出

(5) 議題

ア 緑の基本計画とは

事務局：「緑の基本計画とは」について説明

【質疑応答】

長谷川委員長：本計画の対象区域は東海市全域と記載があるが、企業緑地や民有地も含む認識で良いか。

事務局：沿岸部の工業専用地域は、馴染みのない場所かもしれないが、計画の対象に含む認識で問題ない。

吉 鶴 委 員：本計画は、第7次東海市総合計画に「即する」ことや、東海市都市計画マスタープランとの「整合」が求められているため、これらの計画を十分に確認したうえで委員会資料を読み込み、意見を考えることができるよう、資料はもう少し早めに提供してほしい。委員会は全4回と限られているため、委員と事務局のメーリングリストを作成するなど、意見交換の機会を増やす工夫をし、会議回数の少なさを補う方法も検討してほしい。

事 務 局：検討する。

イ 緑の現況と課題

事 務 局：「緑の現況と課題」について説明

【質疑応答】

花 井 委 員：緑を増やしていくことになるのと、緑のないところに低木や高木を植えていくことになると思うが、公園の管理をしている立場として、今後、緑を増やすだけでなく、樹木が将来的に大きく成長した際の対応について考えることが必要だと思う。東海市の「市の木」であるクスノキは植えてから50年以上経過し、伐採のタイミングが来ている。台風や強風の影響で枯れ枝の落下や倒木の危険性があるため、対策を考えていかなければならないと思う。

長谷川委員長：市民アンケートからも樹木に対する苦情や意見がみられるため、これらを含めた計画を立てられると良い。

「施策 2-3-1 緑の中を快適で安全に散策できる散策路の整備」の達成度が「☆」1つと評価が低いが、どのように評価しているか。具体的な取組内容と数値による達成状況を示してほしい。時代により変わる価値観に対して柔軟に対応していくことで、達成度を低く評価しなくても良いのではないか。

事 務 局：主な事業としてエコプロムナード整備事業について、場所により取組内容が異なり、整備が進んでいない場所もあるため、控えめに評価した。具体的な内容は次回の委員会で提示できるよう整理する。

砂 田 委 員：企業版ふるさと納税制度を活用し、「自然共生サイト」を支援する取組があるため、活用を検討してほしい。

事務局：自然共生サイトについては、環境基本計画を策定した際に、加木屋緑地などが認定を受けられるような取組をしていたため、引き続き検討する。

長谷川委員長：東海市は知多半島グリーンベルトが 2023 年度前期に「自然共生サイト」の認定を受けている。大企業だけでなく、行政も遅れないよう対応する必要があると思う。民間の支援制度もあるため、地域の方々と協働で進められるよう、次の課題に入れてはどうか。

吉 鶴 委 員：公園内のクヌギやコナラの老木化が進行している。カシノナガキクイムシの被害が増え、いずれ枯死する可能性がある。これまでの植栽管理は高木を大事にしており、低木の管理不足などの課題もある。老木したコナラは若い木に更新していくなども検討する必要がある。市民アンケートからも、子どもの虫取り場所に関する要望があり、重要度で評価すると低くならざるを得ないが、カブトムシ等のいる環境を創出するためにも若い木に更新していくことが必要であると思う。

吉 鶴 委 員：市民アンケートにも記載があるように、市内の公園は駐車場やトイレの整備が不十分と感じる。加木屋緑地でエコスクールを実施する際に、子どもに見せたい場所に駐車場が整備されておらず困ることがある。ビオトープ以外の自然を見せることも重要であるため、土地がある場所は整備を進めてほしい。

事務局：国によると、新しい木に更新した方が CO₂吸収量が増加し、生物多様性にも良い影響があるなどといった情報が出ている。樹木の更新は明るい樹林地の創出にも影響するため、今後検討する。

吉 鶴 委 員：老木を好む昆虫もいるため、老木全てを伐採するのではなく、状況に応じた更新が重要である。保存樹木などに指定するなど、必要な老木は残しながら、ゾーニングを意識しつつ、適切に更新していくことが重要と考える。

長谷川委員長：各緑地に合わせた管理方法に関して、緑地それぞれのカルテをつくり、50 年、100 年先を見据えた長期的な植生管理のロードマップを作成すると管理しやすく、将来にも受け継ぐことができるため、今回の計画とは別で作成を検討するとよい。

ウ 緑のまちづくりに向けて

事務局：「緑のまちづくりに向けて」について説明

【質疑応答】

砂田委員：愛知県広域緑地計画で、東海市は「県の骨格を形成する緑地」の一部に位置づけられているため、それを踏まえて計画を作成してもらいたい。

事務局：県の計画の施策との整合を図れるように計画を策定する。

村瀬委員：普段、市の公園緑地を管理する立場として、市民から落ち葉や昆虫、見通し等に関する苦情が多く寄せられている。そうした中で、緑が生活に必要で大切なものであることについて、十分に理解されていないのではないかと感じる。意見を聞くと、市民にとって、緑が大事なものであること、生活に必要なものであることに関して、根本的な理解を得られていないように感じる。大人も子どもも、緑の大切さについて触れる機会が少なく、関心のない方も多いと思うため、保全の視点も踏まえながら、その重要性を広く伝えていく必要がある。オープンスペースとしての役割や延焼防止などの防災機能、豊かな生活環境の形成、個人資産への好影響といった観点も含め、緑の価値を認知してもらう方法を考えてほしい。子どもの自然学習の成果を学校で発表し、保護者に聞いてもらう機会を設ければ、親世代にも響く内容になると思う。こうした学習や広報を通じて、緑の重要性を広く発信する機会を設けてはどうか。

事務局：自然の大切さを理解してもらえるような施策が必要と感じる。加木屋緑地のふるさと再生プロジェクトでは、子どもたちを含め、参加者の皆さんに自然環境の大切さを教えている。それらの活動を推進するとともに、知多半島の地元情報発信に強いメディアとも連携する機会を増やして、広報活動についても推進していきたい。

長谷川委員長：花壇コンクールについて、30by30を踏まえ、3割は在来種を入れるというような条件にしてはどうか。在来種は市場での数が少なく、入手が難しいという現状があるが、行政が働きかけることで在来種の市場流通の契機となると思う。国の指針等の整合だけではなく、市民に在来種を知ってもらい、在来種でなければならないことを、花壇を通じて認知しても

らうことで、30by30 を市民が自分事として考える機会になり、緑の質の担保にもつながる。「質」については、国が遅れている部分もあるため、東海市が先行して緑地の3割に在来種の植栽を奨励する等の取組をすれば、「質」の担保につながると思う。

吉 鶴 委 員：花壇コンクールについて、「バタフライガーデン部門」を新設してはどうか。蜜を出す花や、蝶の幼虫が食べる植物等を植栽することで緑の質の向上と合わせた取組になると思う。

事 務 局：花壇コンクールはこれまで部門に変化がなかったため、新たな開催方法のご意見を踏まえて今後、検討していきたい。

吉 鶴 委 員：現行計画の緑の将来像図では、緑陽公園がレクリエーション拠点として設定されているが、今の緑陽公園は加木屋緑地に次いで自然が残っている部分があるため、自然環境再生拠点についても検討し、位置づけをしてほしい。また、緑のネットワークで南北軸を繋ぐ東西のネットワークが位置づけられており、これは都市計画道路の街路樹を中心にネットワークを形成しているものだが、動物の移動ルートとしては、街路樹は適していない。動物のことを考え、移動ルートにもなるような東西のネットワークも作ってほしい。また、街路樹の中でも、蜜が出るものや食草を植えるなどをしてほしい。緑の将来像図のエコプロムナードは、現状、緑がないのは何とかならないか。河川のしゅんせつ工事を毎年行っているが、川のヨシ原でないと住めない生物もいる。オオヨシキリの繁殖期に草刈りをしているため、繁殖を阻害しないよう、繁殖後に草刈りをしてほしい。洪水対策等との兼ね合いも必要だと思うが、1か年で考えれば、影響は少ないと思うため、計画を考えてほしい。

事 務 局：緑陽公園は、34ha と広大な敷地の整備を順次進めている。その中をゾーニングし、レクリエーションゾーン等に加えて自然環境ゾーンをいくつか設けて事業を進めていく予定である。緑のネットワークは、現行計画では街路樹に加え、グリーンベルトも現況の緑として形成している。道路により形成されたネットワークは、動物にとって街路や道路が危険となるという意見も踏まえ、将来像を検討していきたい。また、エコプロムナードは、河川堤防を対象としているが、幅員や構造的な条件もあり、緑地環境を整備するのは難しい箇所も

あるが、整備可能な範囲は整備を進めていきたい。草刈り等についても、洪水対策とのバランスも必要となってくる部分もあるが、意見を踏まえ河川管理部署と連携し、整備可能な範囲で進めていきたい。

吉 鶴 委 員：河川堤防は、ヨシ原で在来種を保全することが可能であり、太田川沿いにも、貴重な在来種が残っている場所がある。草が繁茂している場所を、在来種の守る場所へと変化させることができるはずであると考えているため、緑被率を維持しながらそのような取組ができると良い。

長谷川委員長：基本方針についての文言は、次回までに委員の皆さんにも考えていただきたい。基本方針①は今ある緑をどう守るかについて、基本方針②は地域の緑をどう活かすか、基本方針③は個人個人が緑とどう関わるかという整理に見える。基本方針②では、緑を「ふやす」だけでなく、「質」を高める方針を計画に盛り込んでほしい。基本方針については次回以降、議論していく必要がある。

砂 田 委 員：方針は今後議論していく内容と思う。現時点では、愛知県広域緑地計画の広域的な緑地の配置図が記載されており、連携を図ろうとしてもらっているようなのでありがたい。

長谷川委員長：街路樹は緑のネットワークにおいて重要なキーワードとなる。高木のみでなく、植栽帯に関する県の補助なども活用できるとよい。

【本日の感想】

松 本 委 員：市の情報の発信と交流といった視点で、緑の基本計画と地域の皆さんを繋ぐ役割として、意見を出していきたい。

花 井 委 員：公園を管理している側として、昔と変化があるように感じる。夏場の暑さや雨の多さなど、将来、起こると思われていた気候変動による変化が前倒しで現れている。これまで5月に実施していた作業を4月に実施するなど、早めの対応が必要になってきている。また、暑さの期間が長い中で、協力をお願いする人たちにどう対応してもらうかが課題になると思う。

吉 鶴 委 員：豊田市自然観察の森で維持管理等をやっていた際に、虫に関する苦情や生理的に嫌だといった意見がみられた。生き物の話や解説を通じて、何の役に立っているかを説明すると納得

し、理解を得てくれる人もいた。そのような経験を今回の計画策定にも活かしていきたい。

村 瀬 委 員：普段の仕事の中で、住民の方と接する機会が多いため、生の意見を聞くことができる。市民の考えや要望を計画に反映させていきたい。

(6) その他

ア 今後の予定

事 務 局：第2回委員会の開催日時と議題について説明

(7) 閉会